

一九六七年（掲載誌、発行元不明）

新しい時代の通信教育

財団法人日本生産性本部
プログラム教育研究所長

矢口 新

教育において教材の占める役割は大きい。学校で教科書もつっている役割を考えるとわかるであろうが、教師が解説することによって機能を果すということも事実である。教科書がただ生徒の前に置かれただけでは、教育力を発揮しないのである。通信教育の弱点とする所は、その解説をする教師が欠如しているという所にあるといわれていた。この考え方によれば、通信教育は所詮学校教育の二番せんじ以上には出られないといふべきであろう。

ところがテキストというのは、現在学校で使われているような形のものばかりであろうか。自学自習用のテキストというの

があるのではないか。学校教育の中でも、テキストについてはそのあり方が根本的に検討されつつある。そしてプログラムされたテキストが生れ出て来たのである。プログラムされたテキストというのは、生徒の学習活動を促し、直ちにフィードバックするテキストである。これまでの教科書のように、ただ説明するためのものではないのである。

こういうものが生まれて来ると、通信教育は従来の学校教育の二番せんじ型から抜け出すことができるのである。生徒の所へ直接プログラムされたテキスト、更には教材をおくりこむことによつて、教育することができる。既に学校でも、そういうテキストを使いはじめているのであるから、通信教育は当然その方向に転換すべきなのである。

通信教育が、旧い形の学校の教科書を通信という形で送りこむという、いわば学校教育に依存する時代はもう終わったといふべきではなからうか。

新しい教育の時代が目前に来てゐる。それは通信教育の考え方も根本的にかえることを要求している。それがまた通信教育への発展を促すのである。